

偽葬式
ぎそうしき

か
み
た
に
り
き

人
物

不破 雷蔵（69） 不破 コンツェルン 当主

不破 次郎（40） 美貴子の夫

入間 一男（55） 不破の秘書

高 貫 勇（50） 不破 総合商社・常務

不破 美貴子（36） 不破の娘

女 児（5）

○『不破総合商社』ビル・正面玄関前

一台のリムジンが停まる。

風で舞うイチョウの枯れ葉。

車からハットを被り、コートを着た不

破雷蔵（69）が降りてくる。

ビルに向って颯爽と歩き出す不破。不

破の後に続く人間一男（55）。

○同・動くエレベーター内

ズボンのポケットに両手を突っ込み、

階数の表示が減っていくのを鼻歌交じ

りに見上げる高貫勇（50）。

× × ×

『一階』の表示灯が点灯し、エレベー

ターの扉が開く。

不破が立っている姿が見え、慌ててポ

ケットから手を出し、姿勢を正す高貫。

高貫、扉を手で押さえながら、

高貫「これは、これは不破様。どうぞ、御通

り下さい」

頭を下げる高貫を無視し、エレベーターに乗り込む不破。入間も後に続く。エレベーターの外で、深々と頭を下げる高貫。扉が閉まり、高貫の姿が消える。と、顔を顰める。

不破「タヌキが……」

○同・不破の部屋

不破と入間が入ってくる。

デスクチェアで不破次郎（40）が寛いでいる。

次郎、慌ててデスクチェアから立ち上がり、

次郎「お義父さん、お帰りなさい」

不破、コートを脱ぎながら、次郎を一瞥し、ポールハンガーにコートを掛け

る。

不破、デスクチェアに腰を下ろし、

不破「何の用だ？」

次郎「何の用って、随分つれないな。お義父さんのことが気になって。また、心臓の方が良くないって美貴子から聞きましたよ」

不破「ふん、思ってもないことを白々しい。大体、お前に心配してもらう筋合いなどないがな」

次郎「そんな言い方ないですよ！お義父さんは僕の事、気に入らないかも知れませんが、僕と美貴子とは夫婦なんです。だから、義理の父を心配するのは当然じゃありませんか」

不破「あー、お前の言うことを聞いてると体が痒くて仕方がない」

次郎「と、わざとらしく首筋を掻き毟る。」

不破「わしはお前みたいな偽善者面したヤツが、一番嫌いだ。どうせ、心の中ではこんな老いぼれ早くくたばればいいと思っ
とるんだろ」

次郎「貴方って人は、どこまで捻くれ者なん

ですか。僕は、悲しいですよ」

不破「そうか。だったら家で勝手に泣いてろ。

さあ、さつさと此処から出て行け！」

次郎「呆れた人だ……」

首を傾げ、部屋から出ようとする次郎。

不破、椅子から立ち上がり、

不破「何だと！！お前の顔なんぞ、二度と

見たくもない！」

不破、机の上の書類の束を次郎に向っ

て投げつける。

閉まるドアにぶつかり、散乱する書類。

胸を押さえ、片手を机について苦しみ

出す不破。

人間「旦那様！」

不破、駆け寄る人間を片手で制し、

不破「大丈夫だ。少し、興奮したただけだ」

不破、椅子に腰を下ろし、息を整える。

不破、人間に向き直り、

不破「それより、例のモノは？」

人間「はい、もう少しで完成のことです」

不破「そうか……」

椅子の背に凭れ、目を閉じる不破。

○同・正面玄関前

不破、建物から出てくる。

風船を手に駆けて来た女兒（5）、不破

とぶつかる。

女兒、尻餅をつき、風船を手放す。

女兒、上空へと昇っていく風船を見て、

女兒「あっ」

と、泣き出す。

不破「慌てて……い、人間！」

人間「はっ！」

と、ペロペロキャンディを女兒に手渡

す。

不破、泣き止む女兒に胸を撫でおろす。

○教会・外観

小高い丘に建つ白い建物。

T・数か月後。

○同・中

多くの花で囲まれた祭壇。

祭壇の中央に棺が置かれ、中には遺体となつた不破が納められている。

不破の遺体を見詰める喪服姿の不破美貴子（36）。

美貴子「パパ……」

その場に泣き崩れる美貴子。

次郎、美貴子を抱き起す。

目を開け、目玉をぐりと動かす棺の不破。

○地下施設・中

薄暗い室内。

モニターが数台と設備機器が設置されている。

美貴子が次郎に支えられながら、祭壇を離れる姿がモニターに映る。

不破「美貴子、済まん。お前には気の毒な事をするが、これも次郎のヤツの本心を探る

ためだ。許してくれ」

と、ペロペロキャンディを舐めながら、

モニターを見詰める。

不破「しかし、よく出来てるな。人間」

暗闇から人間が姿を現し、

人間「はい。何せ、不破コンツェルンの財力

と技術の粋を集めて完成させた精巧なアン

ドロイドです。そう簡単には偽物とは見破

れんでしよう」

モニターに目をやり、目を細める不破。

不破「ほう、これは面白い奴のお出ましだ」

高貫の姿がモニターに映る。

○教会・中

高貫、棺の不破アンドロイドを見詰め、

高貫「とうとう、くたばったか。散々、威張

り散らしやがって。あんたも案外、呆気な

かったな、不破さんよ」

高貫、不破アンドロイドの片頬を抓り、

高貫「死んじまったら、流石のあんたもこん

な　こ　と　さ　れ　て　何　も　言　い　返　せ　ね　え　よ　な　。　ざ　ま
あ　、　ね　え　や　」

不　破　ア　ン　ド　ロ　イ　ド　、　目　を　開　き　、　高　貫　を
睨　む　。

腰　を　抜　か　し　、　そ　の　場　に　尻　餅　を　着　く　高　貫　。

○　地　下　施　設　・　中

不　破　、　腰　を　抜　か　す　高　貫　が　映　る　モ　ニ　タ　ー
を　見　詰　め　、

不　破　「　い　い　気　味　だ　、　こ　の　タ　ヌ　キ　が　」

と　、　高　笑　い　す　る　。

高　貫　の　そ　ば　に　よ　る　次　郎　の　姿　が　映　し　出　さ
れ　る　モ　ニ　タ　ー　。

○　教　会　・　中

次　郎　、　高　貫　の　そ　ば　に　寄　り　、

次　郎　「　ど　う　し　た　ん　で　す　か　？　　高　貫　さ　ん　」

高　貫　「　い　、　生　き　返　っ　た　ん　だ　よ　！　　不　破　の　じ　い

さ　ん　、　俺　の　事　睨　み　つ　け　や　が　っ　た　」

次　郎　「　馬　鹿　な　、　冗　談　は　顔　だ　け　に　し　て　下　さ　い　」

高貫「ほ、本当なんだって！　嘘だと思うなら覗いてみろ」

次郎、棺の中を覗き込む。目を瞑る不破アンドロイド。

次郎「しかし、穏やかな顔してるな」

高貫「えっ？」

高貫、立ち上がり、棺の中を見る。

次郎「生きてるときにもっとこんな顔見せて

欲しかったな」

高貫「次郎さん、あんた不破の爺さんのこと

本当に……」

次郎「なーんてね。死んでくれてこっちとし

ては清々してるんだよね」

棺の中の葉巻を取り、葉巻の端を噛み

ちぎる次郎。

次郎、端を不破アンドロイドの顔に吐

き捨て、

次郎「コイツに今までどれだけ苦しめられた

か。でも、それも今日で終わりだ」

高貫、次郎の葉巻にライターの火を近

づける。

次郎「これは、どうも」

と、葉巻の煙を吐き出す。

高貫「次郎さん、遂にあんたの時代が来まし

たな。実は私はね、あんたのことを前から

買ってたんですよ」

次郎「高貫さん。ホント、タヌキだね」

次郎と高貫、高笑いする。

○地下施設・中

スピーカーから

次郎の声「ここだけの話、美貴子と結婚した

のだって不破の財産が目当てですからね。

じゃないとだれがあんなアバズレ」

不破、椅子から立ち上がり、

不破「人間！」

人間「は、はい」

不破「生き返るぞ」

人間「かしこまりました」

不破、颯爽と部屋を出て行く。（了）